

整形外科学：その他

39-083 誤っている組合せはどれか。

1. 熱傷-癬痕拘縮 *熱傷では皮膚の短縮や癬痕形成をおこしやい。*
2. 手掌腱膜-デュピトラン拘縮：手掌腱膜の肥厚により屈曲拘縮をおこす。原因不明。
3. 筋阻血-筋性斜頸 *筋の腫瘍による。親生児にみられる。*
4. 関節リウマチ-骨性強直 *関節の炎症が去ると、関節変形、破壊、強直がおこる。*
5. 五十肩-関節包癒着

39-089 正しいのはどれか。

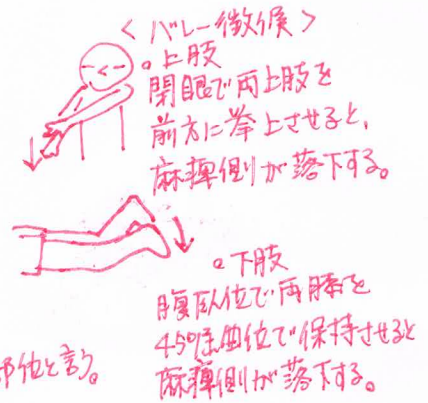
1. 先天性股関節脱臼は男児に多い。 *女児*
2. ペルテス病では股関節に内転制限が起こる。 *外転、内旋*
3. マルフアン症候群では四肢の短縮が起こる。 *か長くなる。高身長、7毛指。*
4. 先天性多発性関節拘縮症は生後進行する。 *非進行性生である。*
5. 二分脊椎では水頭症を合併しやすい。 *顕在性の二分脊椎では水頭症やキアリ奇形などを合併しやすい。*

41-078 神経病性関節症（シャルコー関節）で誤っているのはどれか。

1. 関節痛覚低下 *感覚障害が原因でおこる関節症で、*
2. 滑膜増殖 *変形性の膝関節症などの鑑別が必要である。*
3. 関節液貯留 *原因疾患：脊髄造影、脊髄空洞症、糖尿病など*
4. 軟骨増生の壊死、炎症
5. 骨破壊

42-081 髄膜刺激症候で誤っているのはどれか。

1. 項部硬直
2. バレー徴候 *上下肢の軽度の運動麻痺(錐体路徴候)の時にみられる。*
3. ブルジンスキー徴候
4. 頭痛
5. ケルニツヒ徴候



45-A-089 熱傷で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. III度熱傷は真皮層までの損傷をいう。
2. 四肢関節部位は特殊部位と呼ばれる。 *関節部位や顔面陰部などは特殊部位と云う。*
3. 癬痕形成の予防として圧迫と伸張が用いられる。
4. 手の熱傷では手内筋プラスポジションとなりやすい。
5. 小児の熱傷面積を算出する場合は9の法則を用いる。

成人では9の法則を用いる。

46-A-076 急性炎症が主な病態であるのはどれか。

1. 肩関節周囲炎
 2. 痛風性関節炎
 3. 結核性膝関節炎
 4. 肘離断性骨軟骨炎 *野球肘*
 5. 上腕骨外側上顆炎 *テニス肘*
- 反復する負荷(スポーツ)で生じる。*

当熱傷

I度	——	表皮のみ	発赤のみ
II度	}	浅達性	真皮残層 (破れぬ水疱、癬痕形成なし)
		深達性	真皮深層 (破れぬ水疱、癬痕形成あり)
III度	——	皮下組織以下	

皮層多道、場合に切離

※ II度の浅達性では強い痛み。
 II度の深達性~ III度では、
 感覚神経が損傷されるため、
 疼痛は軽くなる。

48-P-086 熱傷について正しいのはどれか。

1. I度では皮膚の発赤をきたす。
2. 浅達性II度では肥厚性癬痕を残す。
3. III度では強い痛みがある。 *ほとんどの痛みが消失。II度浅達性:強い痛み*
4. 小児の熱傷面積の概算には9の法則が用いられる。
5. 熱傷指数はI度とII度の面積から算出する。

深達

成人

熱傷指数 = II度の面積(%) x 2 + III度の面積(%) 10~15%以上は重症である。

④ 肩手症候群(CRPS Type I)

48-P-083 肩手症候群で正しいのはどれか。

1. 初期は疼痛を伴わない。?
2. 末期に手指腫脹がみられる。
3. 初期に皮膚紅潮がみられる。→ 有故か
4. 慢性期の温熱療法は禁忌である。
5. 複合性局所疼痛症候群 (CRPS) II型である。

Ⅰ期 疼痛・腫脹・発赤・熱感 骨粗鬆化
 ~3か月
 Ⅱ期 疼痛↓、関節拘縮
 3~6か月
 Ⅲ期 筋萎縮
 6か月~ 骨萎縮化

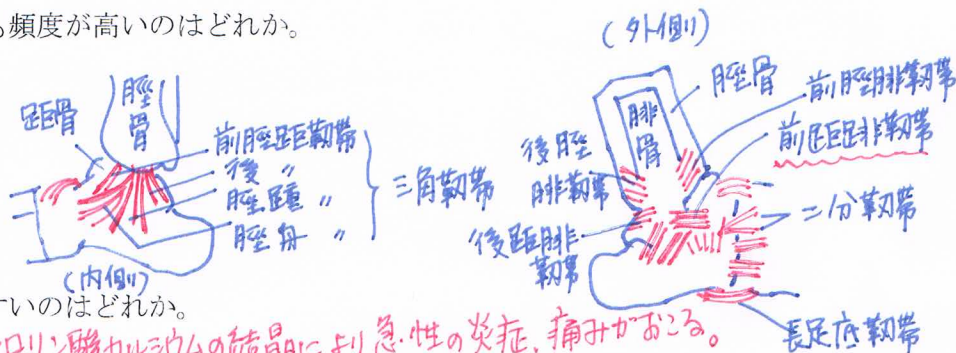
49-P-086 女兒に多いのはどれか。

1. Perthes 病 5~10才の男児、大腿骨頭の壊死
2. 先天性内反足 男児 内反内転尖足凹足
3. 大腿骨頭すべり症 10~16才の肥満男児
4. Osgood-Schlatter 病 12~15才のスポーツ男児
5. 發育性股関節形成不全 寛骨臼蓋の形成不全、大腿骨頭の發育不全

(治療法) 温熱療法、温冷交代浴
 星状神経節ブロック

49-A-087 足関節靭帯損傷で最も頻度が高いのはどれか。

1. 三角靭帯
2. 踵腓靭帯
3. 前距腓靭帯 足で内反した時に生じやすい。
4. 後距腓靭帯
5. 前脛腓靭帯



49-A-088 膝関節血腫を生じやすいのはどれか。

1. 偽痛風 高齢者に多い。ヒロリン酸カルシウムの結晶に於急性の炎症、痛みがある。
2. 血友病 足関節や肘関節の出血も多い。
3. 滑膜ヒダ障害 (相関障害) 滑膜ヒダが膝蓋骨と大腿骨の間に挟まる。痛み、キャッチング現象。
4. ジャンパー膝 ジャンプを繰り返すことで大腿四頭筋の力により膝蓋腱の炎症や部分断裂がある。
5. 変形性膝関節症